

## 第11回野上紘子記念アート・ドキュメンテーション学会賞・同推進賞受賞者

標記の賞につき、会員の皆さまよりご推薦いただいた候補のなかから選考の結果、2017年度は学会賞1件・推進賞1件の下記授賞を決定いたしました。今後とも本賞の発展にご協力くださいますよう、お願いいたします。

### ◆第11回野上紘子記念アート・ドキュメンテーション学会賞

〔賞の概要〕

『アート・ドキュメンテーション研究』、『アート・ドキュメンテーション通信』、その他の雑誌に掲載の論文・記事、図書、データベース、展覧会、ウェブサイトのなかから優れたものを選出。会員に限らない。対象となる論文・記事、図書、展覧会は、受賞年の前年度を含む過去3年間に発表されたものとする。

受賞	<p><b>高橋 晴子 氏 ならびに MCDプロジェクト</b></p> <p>「身装画像データベース&lt;近代日本の身装文化&gt; および『日本人のすがたと暮らし : 明治・大正・昭和前期の身装』(三元社, 2016)の業績」に対して</p>
授賞理由	<p>MCDプロジェクトは高橋晴子氏や故大丸弘氏が中心となって進めてきた約30年に及ぶ歴史を持つ。身装画像データベース&lt;近代日本の身装文化&gt;は、明治維新後約80年間にわたる日本の身体と装い(身装)を、新聞小説挿絵や写真などの画像から検索することのできるデジタルアーカイブである。正確な出典情報、適切なキーワードの付与、研究者による解説や、身装文化全般の背景をテーマ別にわかり易く説明した「参考ノート」も公開されており、専門家から一般の利用者まで幅広い利用者を対象にしたウェブサイトとなっている。データベースシステムとウェブインターフェースの開発という技術系研究者の協力がある点も見逃せない。</p> <p>また、ウェブサイト構築に関連して刊行された主担当者の高橋晴子氏の著作『近代日本の身装文化「身体と装い」の文化的変容』(三元社, 2005)、『年表 近代日本の身装文化』(三元社, 2007)、とりわけ同データベースの「参考ノート」を元にして書かれた『日本人のすがたと暮らし : 明治・大正・昭和前期の身装』(大丸弘・高橋晴子共著 三元社, 2016)も重要な貢献である。きわめて優れたドキュメンテーション・ワークであり、学会賞を授与するに値する業績として高く評価される。</p>

### ◆第11回野上紘子記念アート・ドキュメンテーション推進賞

〔賞の概要〕

アート・ドキュメンテーション関係業務の現場において、効果的かつオリジナリティを発揮した者、あるいは機関を選出。会員に限らない。

受賞	<p><b>水谷 長志 氏</b></p> <p>「日本美術資料の国際的情報発信に関する現状把握と基盤整備にむけた業績」に対して</p>
授賞理由	<p>水谷長志氏は、従来およそ策定されなかった「海外日本美術専門家(司書)の招へい・研修・交流事業」を初めて企画し、文化庁文化芸術振興費補助金を取得して実行委員会を組織し、2014年度から2016年度の3年間に、この大規模な事業を着実に実現した。</p> <p>この事業は、海外の美術図書館・資料室などで活動する12カ国25名の日本美術関連の専門家を日本に招聘してシンポジウムやワークショップを開催する取り組みを中心に、わが国における美術資料の国際的情報発信の実情を実務的視野から検証し、緊要な課題を可視化した。その方法論と基盤整備の改善・向上を提言する内容は注目し得る。データベースにもとづく美術資料情報発信の拡充のみならず、ひろく海外における現代的な「日本学(Japanese Studies)」の改革を呼びかける成果は、高く評価されねばならない。ここに推進賞を授与する次第である。</p>

※第12回 野上紘子記念アート・ドキュメンテーション学会賞・推進賞の推薦募集は2018年1月下旬の開始予定です。  
詳細は『アート・ドキュメンテーション通信』および学会のウェブサイトにて告知いたします。  
会員のみなさまには、ぜひ多くの推薦をお寄せくださいますようお願い申し上げます。